

平成30年度指定管理運営業務評価票

施設名称：大阪府立漕艇センター		指定管理者：一般社団法人大阪ボート協会	指定期間：平成28年4月1日～平成33年3月31日	所管課：大阪府教育庁教育振興室保健体育課		
評価項目	評価基準（内容）	指定管理者の自己評価	評価	施設所管課の評価	評価	評価委員会の指摘・提言
			S～C		S～C	
平等利用が確保されるよう適切な管理を行なうための方策	(1)施設の設置目的及び管理運営方針	①施設の設置目的に沿った運営	府民に漕艇の場を提供し、もってスポーツの振興に資することを目的に、利用者の協力を得ながら施設の管理運営を実施。 (評価点：3点)	A	利用者の協力を求めながら、施設の管理運営を実施している。 (評価点：3点)	A
		②提案した管理運営方針に沿った管理	大阪府のボート競技の拠点として、良好な競技環境の確保に努めるとともに、競技大会等で利用者が多数来館された際には、協会の役員がボランティアとして事務の運営をサポートしている。 (評価点：3点)		日々の管理運営においては競技団体であることを強みとし、利用者（団体）と良好な関係を構築しているとともに、各種大会では協会役員が積極的に施設運営に関与しており、提案した管理運営方針に沿った管理運営を行っている。 (評価点：3点)	
		③社会貢献活動、環境活動、法令遵守の取組み	一般社団法人として法令遵守は当然のことながら、利用団体には施設の適切で良好な利用に心掛けてもらうよう、掲示や定例の利用者会議、メーリングリストにおいて遵守事項・管理内容の確認や協力依頼を行なった。また、浜寺水路の水面環境を良好に保つため、明確化した水路利用におけるルールを施設内に掲示し、艇の扱いに関するマニュアルも作成して、利用者への周知を図っている。 (評価点：3点)		浜寺水路の水面環境を良好に保つためのルールを改善し、各利用者（団体）の安全確保に努めている。 (評価点：3点)	
	(2)平等な利用を図るための具体的手法・効果	①公平なサービス提供、対応状況	希望する個人や団体が平等かつ公平な利用ができるよう、不当な占有状態の排除などの調整を実施した。また、利用における要望や問題点について情報を受付ける利用者会議を開催し、より良い利用環境の確保に努めた。艇の置場所の管理についての苦情を踏まえて、艇の置場所管理の取り決めと周知方法について再検討し、利用者が快適に利用できる環境の整備を図った。 (評価点：3点)	A	施設を利用する全ての方が平等に利用できるよう、利用団体との定期会合の機会を設け、各種調整や協力の依頼を行っている。 また、艇庫内に置かれている団体の私物等についても、定期的に撤去を要請し、艇庫の環境を整えるよう努めている。 (評価点：3点)	A
		②高齢者、障がい者等に対する配慮	障がい者の料金減免措置に係る規定をホームページに掲載している。また、障がい者スポーツの意義、障がい者マークなどの基本的知識について協会スタッフの学習の機会を設けている。 (評価点：3点)		高齢者や障がい者がボート練習を安全に利用できるよう艇の出し入れのサポートを行ったりし配慮している。 また、スタッフ会議にて障がいについての自主勉強会を実施している。 (評価点：3点)	
	(3)利用者の増加を図るための具体的手法・効果	①利用者増を目指したにぎわいづくり方策の取組み	地元高石市と数度会合を持ち、市と協力した市民向けボート教室、レガッタなどイベントの事業展開について話し合いを実施した。平成31年度の全日本マスターズレガッタ（日本ボート協会主催の大会で全国から千人以上の選手が参加する）の誘致に成功しており、本施設の認知度向上にも資すると考えられるため、レセプションイベントも含め地域と連携した受け入れ態勢の整備に努めている。 (評価点：3点)	A	長期的な視点で利用者を増やすという観点から、今年度は親子ボート教室や、他競技からの転向を目指したトライアル等、新規の取り組みがみられた。また、毎年開催しているボート大会についても、施設利用の協力を努め、にぎわいの創出を心掛けている。 (評価点：3点)	A
②年間の広告・広報計画等の情報発信の取組み 【指標】利用者数 平成29年度実績：47,742人 平成30年度目標：50,000人 9月末現在実績：26,392人		高石商工会議所に漕艇センターのパンフレットを置いていただいている。また、協会のホームページ内と併せて漕艇センターのホームページ（英文での紹介ページを併設）を作成・管理し、施設の利用に関する情報発信の充実強化に努めている。 (評価点：3点)	協会ホームページ内に漕艇センターのホームページを作成するとともに、英文での紹介ページも併設し、情報発信に努めている。 (評価点：3点)			

評価項目	評価基準（内容）	指定管理者の自己評価	評価	施設所管課の評価	評価	評価委員会の指摘・提言	
			S～C		S～C		
I 提案の履行状況に関する項目	(4)サービスの向上を図るための具体的手法・効果	①提案のあったサービス向上策の取組み	施設周辺にはコンビニエンスストアや飲食店がないため、市内の弁当屋にお願いし、いつでも施設まで配達してもらえるようにしている。熱中症対策として艇庫建物内共用スペースに扇風機を置いて随時快適な休憩を可能とするほか、安価な飲料の提供、製氷機の設置などの対応を図っている。 (評価点：3点)	A	利用者要望の多い飲料や昼食の配達等についてのサービスに取り組んでいる。また、熱中症対策にも力を入れて取り組んでいる。 (評価点3点)	A	
		②自主事業の取組み	市民向けボート教室を開催し、施設の利用拡大を図った。教室開催の告知は高石市の協力を得て市内の小中学校に配布し、多くの市民への周知に取り組んだ。 (評価点：3点)		高石市内の小学校高学年及び中学校の全生徒にボート教室のチラシを販促するなど、自主事業の参加者増に取り組んでいる。 (評価点3点)		
		③施設設備、機能の活用	高石商工会議所が主催するドラゴンボート大会に全面的に協力している。また、レースや水上イベント、合同練習等の利用についても、様々な利用希望に対して円滑な対応と開催支援を行う手順を整理し、公開マニュアルを作成するなどにより、一層の施設活用を図ることとしている。 (評価点：3点)		毎年、ドラゴンボート大会や花火大会における施設の全面的利用の協力を実施しており、施設の活用促進に努めている。また、大会運営マニュアルも作成し、円滑な大会運営に努めている。 (評価点：3点)		
	(5)施設の維持管理の内容、適格性及び実現の程度	①施設設備の効果的な維持管理	ボート競技経験者が定期的に貸艇の定期的な状態を確認し、軽微な補修については外注するのではなく指定管理者のスタッフが適宜補修を実施している。利用者向けの艇の取り扱いについてのマニュアルを作成し、保有艇の品質管理に努めている。 (評価点：3点)	A	競技団体が指定管理業務を行うことの強みの一つである艇に精通していることを活かし、軽微な補修や日々のメンテナンス等を実施し、貸艇の維持管理に努めている。 一方で指定管理者業務の1つである建物の維持補修については、指定管理となってから具体的な取り組みが少なく、今後の課題である。 (評価点：2点)	B	府がフォローすることで、指定管理者に建物の維持補修計画を立案していただき、確実に実行してもらうこと。
		②施設設備の安全管理	管理運営マニュアルに基づき、事務の受付業務や設備の保守点検等安全管理の徹底を実施している。 法令点検等については専門業者に委託し、適正な運営管理を実施している。 (評価点：3点)		管理運営マニュアルに従い法定定期点検を実施し、設備の安全管理を実施している。 (評価点：3点)		普段の業務量を考えると常駐人数を増やすのは難しいと思うが、災害などの緊急時には確実にフォローできる体制を整えること。
		③緊急時の危機管理体制	指定管理開始当初に作成した緊急時連絡体制表に基づき、大阪府教育庁、地元警察署、消防署、市役所等と緊急時における連絡体制を確認している。また、管理運営マニュアルにおいて緊急時の対応手順を定め、利用者の安全を確保することとしている。 (評価点：3点)		管理運営マニュアルにより緊急時の利用者の安全確保体制を構築しているが、今般の地震や台風の際、施設の被害状況の確認の初動対応が不十分であり、緊急時における危機管理体制の見直しを期待する。 (評価点：2点)		
	(6)収入確保策の実施	①広告収入等の収入確保策の取組み	これまで広告収入の確保は実現していないが、ボート教室による市民の利用者増、レガッタや合同練習などの企画や開催協力などを通じて利用者数の維持・増加に努めている。 (評価点：3点)	A	現状では広告収入は実現していないが、今後自主事業の取り組みの成果が表れることにより、広告等収入の確保やメディアへの露出を期待している。 (評価点：2点)	A	
		②提案どおり実施されているか。	艇庫料の完全収納のための取組を実施している。現在、市民のボート競技体験の機会を広く提供するためボート教室を開催しており、継続的な市民利用者が一定数見込めることができれば、これを核とした「地域水上スポーツクラブ」を設立し、新たな利用者拡大の受け皿として発展するよう検討している。 (評価点：3点)		これまで地域水上スポーツクラブの実現はしていないが、市民レガッタやボート競技体験会を開催する等、長期的な視点で利用者・収入確保に向けて動いている。 (評価点：3点)		

評価項目	評価基準（内容）	指定管理者の自己評価	評価	施設所管課の評価	評価	評価委員会の指摘・提言
			S～C		S～C	
			その他管理に際して必要な事項 (7)府施策との整合		①府、公益事業協力等の取組み	
②行政の福祉化の取組み	就職困難層への雇用や就労支援及び障がい者の実雇用については、小規模施設であり、運営経費も他の施設と比較しても小さいため、困難なところである。 (評価点：2点)	漕艇センターは小規模施設であることと、指定管理者本体も小規模団体であるため、就職困難層や障がい者の雇用は実質困難なところである。 (評価点：2点)				
③ 市民・NPOとの協働の取組み	市民向けボートレースやボート教室の開催、地元市の団体が主催運営するドラゴンボートのレース運営支援を通じて、市民との良好な関係を構築している。 (評価点：2点)	高石市や商工会議所等のイベントや市民レガッタの開催により、府民等との協働関係に取組んでいる。 (評価点：2点)				
④環境問題への取組み	廃棄物の減量化及び適正な分別廃棄を実施している。また、利用者にも分別をお願いするとともに、節電、節水に協力を要請している。 (評価点：2点)	利用者の協力を得ることで環境問題への取組みを実施している。また、光熱水費の節減にも取り組み、経費節減にもつながっている。 (評価点：3点)				
I 総括		7項目（28点満点）	A	7項目（28点満点）	A	

II さらなるサービスの向上に関する事項	(1)利用者満足度調査等	①利用者満足度調査等の実施状況	正式な調査としては実施していないが、利用者会議を定期的に行い、その中で各利用者（団体）から改善希望やその他要望を受けるとしている。 (評価点：3点)	A	利用団体と定期的に会合の場を設けることで、利用者の要望等を把握している。また、利用団体との連絡メールも活用している。 (評価点：3点)	A	
		②調査結果のフィードバック（PDCA）	上記の利用者会議での要望等については、改善可能なものについては、都度改善し、利用者の利便性の向上を図っているところである。 (評価点：3点)		要望から実現したものとして、利用者の安全確保のため艇の航行ルールについて、利用者間で共有を図っている。 (評価点：3点)		
	(2)自主事業	①さらなるサービス向上の取組み 〔指標1〕自主事業参加者数 (公式戦以外のレースやボート教室参加者数) H29実績：約1,200人、上半期実績：400人 H30目標：約1,200人、上半期実績：400人 〔指標2〕自主事業収入状況 (ボート教室参加料) H29実績：10千円、上半期実績：0千円 H30目標：50千円、上半期実績：5千円	市民に水上スポーツの機会を提供し、活動の基盤となるような「地域水上スポーツクラブ」の設立に向けた検討を行っており、今年度はこの核となる継続的な利用者ニーズを発掘、定着させる意味で市民向けボート教室の継続開催に取り組んでいる。これにより漕艇センターの利用拡大と地域に密着したスポーツ文化の発展を目指す。 (評価点：3点)	A	指定管理者の有する知識や経験を活かし、親子ボート教室や試乗体験会、他競技からの転向を目指したトライアルを実施し、漕艇センターの利用者の確保・新規獲得を目指している。また、地元市とも連携し、広報誌掲載による周知にも努めている。 また、「地域水上スポーツクラブ」の設立を目指し、地域の子どもたちにボートに親しんでもらう場を設けている。具体的には、こども練習会を実施している。今年度は既に3回実施しており、当初の参加人数は数名であったが、3回目は15名集まった。今後も継続してボート競技を行う子どもを増やし、クラブ設立を目指している。 (評価点：3点)	A	自主事業の充実に向けて、府として支援できることがあれば、実施していただきたい。
(3)その他創意工夫	①その他創意工夫の取組み	競技団体として競技の普及振興に係る事業も実施してきた強みを活かして、利用者への安全対策や艇の修理・メンテナンスの方法等のアドバイスを実施しているほか、センター施設を活用した合同練習やレースイベントの企画提案、上部競技団体における講習会等の実施提案なども行っている。 (評価点：3点)	A	利用者の立場に立ち艇のメンテナンスや競技のアドバイスをこなしている。また、利用者の安全確保にも努め、艇利用時の航行ルールを作成・周知する等にも取り組んでいる。 (評価点：3点)	A		
II 総括		3項目（12点満点）	A	3項目（12点満点）	A		

評価項目	評価基準（内容）	指定管理者の自己評価	評価	施設所管課の評価	評価	評価委員会の指摘・提言
			S～C		S～C	
Ⅲ適正な管理業務の遂行を図ることができる能力及び財政基盤に関する事項	(1)収支計画の内容、適格性及び実現の程度	①事業収支計画、事業収支実績状況 〔指標〕 H30収支計算書（プロポーザル） 収入：14,950千円、見込み：14,950千円 支出：14,487千円、見込み：14,487千円 納付金：0千円、見込み：0千円	事業収支及び見込み 《平成30年度：対プロポーザル比》 収入：100% 支出：100% 納付金：100% (評価点：3点)	A	平日の利用者数が殆どいない時間帯におけるロビーや事務室内の消灯や全館空調をオフにすることで電気代の支出を抑えている。今後は自主事業の実施に伴う収入確保に向け努力してもらいたい。 (評価点：3点)	A
	(2)安定的な運営が可能となる人的能力	①職員体制・配置	プロポ提案：常駐1名（非常勤）、2名の非常勤を基本3日交代。 現在プロポ提案どおりの人員配置を実施している。競技大会等に対応が必要な時は、非常勤のシフトを調整し2名体制を取るか、協会の役員または業務担当社員がボランティアで事務をサポートしている。 (評価点：3点)	A	提案どおりの勤務体制を整えているが、地震や台風被災時に施設の安全性について迅速に確認する体制はとれておらず、今後の課題である。 また、大会等の利用者数が多い日程においては、協会役員が事務をフォローしている。 (評価点：2点)	B
		②管理監督体制・責任体制	センター事務局常駐職員と協会事務局とは密に連絡を取り、必要に応じて協会理事がセンター長代理として施設に来所し業務対応している。 (評価点：3点)			
		③指導育成、研修体制	センター長代理として協会の理事が常駐の非常勤に対し、業務の指導管理を実施している。また、人権に関する研修、安全確保に関する講習も業務に関する職員・社員が受講している。 (評価点：3点)			
(3)安定的な運営が可能となる財政的基盤	①法人等事業者の経営規模、事業規模、組織規模等の運営基盤	平成29年度経常収益計 25,105千円 組織規模：役員17名 (評価点：3点)	A	運営基盤は概ね安定している。 (評価点：3点)	A	
	②法人等事業者の財務状況	【H29年度実績】 自己資本合計 3,401千円 資産合計 5,790千円 流動資産合計 4,627千円 流動負債合計 2,389千円 固定資産合計 1,163千円 経常増減額 1,113千円 【H29年財務指標】 自己資本比率 58.7% 流動比率 193.7% 固定比率 34.2% 総資産経常利益率 19.2% (評価点：3点)				以前は指定管理者が約500万円程度の損益上の補填を行っていた。だが、平成28年度以降の損益においては黒字となっている。 黒字となった要因は、大幅な支出の削減にある。特に人件費・光熱水費の削減が大きい。法人の財務指標の目安となる数値については、概ね健全なものとなっている 引き続き支出の抑制と、自主事業の収入確保策を実現させ、さらなる収入増となることを期待する。 (評価点：3点)
Ⅲ 総括		3項目（12点満点）		A	3項目（12点満点）	A